

北陸本部関連団体の動き

北陸技術士懇談会（FIT）

■令和5年度 第1回技術研修会報告

1. はじめに

令和5年11月18日（土）、北陸技術士懇談会第1回技術研修会が金沢勤労者プラザにて開催され、会場で41名、WEBで26名の計67名の参加であった。

講演に先立ち、今度会長より、今回の研修会は当懇談会の若手技術士部会が企画しており、第一線で活躍されている若い講師による講演であるため、楽しみにしていると挨拶された。

2. 講演内容

講演1：「ふるさと紀行のと里山海道の4車線化事業について」

講師 定免 英樹 氏

石川県中能登土木総合事務所のと里山海道課 課長
のと里山海道の歴史から4車線化事業の経緯、ICT施工の取り組み等について講演された。

北陸新幹線の開業効果を県内全域に波及させるため、平成25年3月に能登有料道路は無料化となった。無料化のPRとともに、能登地域の観光誘客を全国に発信するため、新たな愛称を全国から広く公募し、ふるさと紀行



定免氏の講演

「のと里山海道」となった。無料化や新幹線開業によって交通量が約2倍に増加したことを受け、能登と金沢の時間距離をさらに短縮させ、人・物の交流を一層盛んにするため、平成27年度から4車線化事業に着手した。また、4車線化事業では現場の生産性を向上させるため、積極的にICT施工を活用しており、BIM/CIMの試行も行っている。

講演2：「産学官連携における地盤情報オープンデータ化への取り組み」

講師 中野 裕也 氏

富士測量設計株式会社 常務取締役
福井県地質調査業協会が進めている地盤情報のオープンデータ化の取り組みについて講演された。

公共事業等で得られた地盤情報の収集・利活用を

行う「国土地盤情報データベース」の運営は、一般社団法人国土地盤情報センターが主体となることが国土交通省より発表され、今後、官民が所有する地盤情報の共有化に向けた動きが加速すると考えられる。福井県では、地質調査業協会、福井大学・福井高専や福井県の産学官が連携を図り、県で所有する大量のデジタル地盤情報データをオープンデータ化するための独自のプラットフォームを整備し、地盤情報を誰でも自由に二次利用できるアプリケーションソフトウェア開発の取組みを進めている。



中野氏の講演

講演3：「AR技術でアナログ建設現場を救え！」

講師 古村 峰雄 氏

北陸電気工事株式会社 総合企画部 副部長
建設現場の「寸法確認」という品質管理に要する労務工数等を削減するためのアプリ開発について講演された。

大規模な建設現場では、工事写真が1万枚を超えるケースがある。そこでAR技術を用いて、現場での使い勝手がよく、工事記録の省力化、省人化をはじめ、品質管理にも資する工事写真アプリ「まるごとARメジャーアプリ」



古村氏の講演

を開発した。開発にあたり、①ARマーカーサイズの小型化、②ARメジャーの精度確保、③ARメジャー移動の適正化など、様々な技術課題があったが、試行錯誤し解決を図ることができた。このアプリの開発により、①働き方改革の実現、②人手不足解消、③災害リスク低減、④品質向上、⑤お客様との信頼関係向上等の効果を期待しており、今後は、5Gを用いた遠隔現場支援にも役立つものと考えている。

3. おわりに

研修会では、各講演において活発な質疑応答があり盛会であった。最後に西出副会長から閉会の挨拶があった。また、研修会終了後、交流会が開催され、会員同士の活発な交流が図られた。

(石川 辰橋 浩二)